

多い。いったん接合部で損傷が生ずると、損傷がますます集中する場合もあり、ある階だけが大きな被害をうける結果になって、他の階の部材のもっている強度、変形能を十分活用できない結果となる。

3・2・4 柱脚の被害

柱脚は、かんじんの足許で、非常に重要な構造要素でありながら異種の構造の接点となるため、一番、研究の遅れている所である。また、力学的にも複雑な現象が生ずる所である。被害の状況を分類すると、ベースプレート下部の鉄筋コンクリート柱型の断面が十分でないために破壊した場合のほか、アンカーボルトのぬけ出し、ねじ部の降伏変形、ベースプレートの曲げ変形による柱脚固定度の低下、ピン柱脚として設計されたにも拘らず、十分な回転変形ができずに生じたアンカーボルトねじ部

の破断である。これらの対策は、すなわち、今後の研究課題であるが、また一方で、最も施工不良の発生しやすい個所であり、その対策も含めた新しい柱脚の設計法を作り出さねばならない。

3・2・5 仕上材の破損

比較的剛性が小さく、変形量の大きい鉄骨造の仕上げ材は、変形の追随性が要求される。また、取付方法にも工夫が必要である。そうでないと、ラスモル外壁の破損落下、プレキャスト版の落下が生じ、建物外周に危険を撒きちらすことになる。しかし、仕上材の変形能にも限度はあるから、中程度の地震によっては、仕上げ材の破損など生じないように、鉄骨骨組の変形を抑制する設計態度を積極的に採用しなければならないだろう。

次号予告(12月号)

研究速報

AC/DC コンバータ回路を使ったソリッド・ステート無効電力補償装置の原理	坪井邦夫 原島葉雄 稻葉博
ヒドロキシルアバタイトを用いた遠心クロマトグラフィーの研究	高井信明 神井浩 高橋治夫
異形管のロール成形に関する実験的研究—第7報— —溝形ロールによる角管の形成(4)—	木内学 新戸賢孝 谷沢正
異形管のロール成形に関する実験的研究—第8報— —ボックス形・2ロールによる角管成形(1)—	木内学 新戸賢孝 谷沢正
オージェ電子分光法によるNi-Co合金酸化膜の深さ方向分析	木間一彦 石黒勝久 松永
高分解能超圧電子顕微鏡による金結晶粒界構造の解析(2)	市野瀬喜一 石井洋実 森
純鉄の結晶粒界に沿った錫の拡散(II) —ミクロオートラジオグラフィーによる測定—	石田一雄 斎藤洋秀 藤田

生産研究・生産報告発行リスト(1978)

正誤表(10月号)

頁	段	行	種別	正	誤
382	左	↓10	本文	-0.91 (材令7日)	-0.91 m ³ /kg (材令7日)
382	"	↓11	"	-0.73 (材令28日)	-0.73 m ³ /kg (材令28日)
391	"	↑8	"	Rohsenow	Rohsenew
392	右	↓5,6	"	kcal/m ² h	kcal/m ² h °C
398			図面の配置 (ただし、図面の) 説明文は正しい	図6	図5
				図5	図6